

令和6年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設

公の施設の名称		宝塚市立売布北グラウンド				
所在地		宝塚市売布自由が丘8番1号				
指定管理 者	団体名	宝塚ウエルネスライフグループ	指定期間	開始日	平成31年4月1日	
	所在地	宝塚市売布自由が丘8番1号		終了日	令和6年3月31日	
選定方法		公募		評価実施年		指定期間5年のうち5年目
施設設置目的		市民への体育・スポーツの振興を図ることにより、心身ともに健全な青少年の育成及び、住民の健康保持に寄与することを目的とする。				
主な実施事業		①健康保持のための教室及び各種スポーツ教室の開催 ②社会体育施設の管理運営の受託事業 ③健康・スポーツに関する調査研究及び情報提供 ④その他目的を達成するために必要な事業				

2 利用状況(目標と実績)

成果指標		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
			目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
a	利用人数	千人	45	29	45	22	45	27	45	27
b	利用率	%	45	35	45	39	45	36	45	47
c										
d										
e										

3 指定管理業務にかかる収支状況

(単位:千円)

区 分		令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算
収入計	A	27,196	28,491	26,628	27,157
指定管理料		15,078	14,403	13,700	13,900
利用料収入	C	9,644	11,071	9,990	9,846
自主事業収入		2,279	2,798	2,739	3,208
その他		195	219	199	203
支出計	B	21,890	26,153	24,145	24,605
指定事業費		20,286	24,185	22,043	22,145
内、人件費	D	3,629	4,435	4,114	4,045
内、再委託料	E	10,584	11,534	11,438	12,157
自主事業費		1,604	1,968	2,102	2,460
事業収支	A-B	5,306	2,338	2,483	2,552
利用料金比率	C/A	35.5 %	38.9 %	37.5 %	36.3 %
人件費率	D/B	16.6 %	17.0 %	17.0 %	16.4 %
再委託費比率	E/B	48.4 %	44.1 %	47.4 %	49.4 %
・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。 ・着色セルは、自動計算としている。 ・事業費は、前年度以前の決算を記載する。					
補足説明	その他収入は、物価高騰対策指定管理者継続支援金を含む。				

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
① サービスの履行の確認	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を実施している。	A	A
	外部委託	外部委託の内容は、事前に市の承認を受けており適切である。	A	A
		外部委託業者に対して協定書等を遵守させている。	A	A
	法令遵守等	法令、条例等に基づき、必要な点検、報告等を行っている。	A	A
	個人情報保護	個人情報保護に関する法令等を遵守している。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等の事故防止対策を講じている。	A	A
	情報公開	情報公開に関する法令等に準じた運用を行っている。	A	A
		協定書に従い、情報を適切に管理し、公表している。	A	A
	管理記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
② サービスの質の評価	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	緊急対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A
		緊急時のマニュアルが整備され、定期的な訓練を行っている。	A	A
		緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行った。	A	A
	財務状況	団体の財務状況は、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総 括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準18項目／本施設 項目】	A	A
	施設管理	協定書に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じている。	A	A
	利用者対応	利用許可、案内等を迅速かつ適切に行っている。	A	A
		利用者に対して設備、備品等を適切に提供している。	A	A
		言葉使い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
③ 安定性	事業運営	事業計画に即し、受託事業を実施している。	A	A
		施設の目的に添った自主事業を実施している。	A	A
		事業内容がサービス水準の向上に寄与している。	A	A
	維持管理	仕様書等に従い、清掃、警備、衛生管理を適切に行っている。	A	A
		仕様書等に従い、施設や設備の保守管理を行っている。	A	A
		備品台帳に基づき、備品を適切に管理している。	A	A
		協定書等に従い、適切に修繕を行っている。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等環境への配慮がなされている。	A	A
	広報活動	事業の開催案内、ホームページの管理等を適切に行っている。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
		要望、苦情等を整理し、遅滞なく市に報告している。	A	A
	利用者アンケート等	利用者アンケート調査等を実施し、その結果が妥当である。	A	A
指定管理者所見 (成果、課題、今後の改善点等)	利用状況	利用者数、稼働率等は、目標に対し妥当な水準である。	A	A
	《 総 括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準18項目／本施設 項目】	A	A
	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	予算執行	収支予算書の範囲内で適正に予算を執行している。	A	A
	経費削減	経費が縮減され、又は縮減に向けた努力を行っている。	A	A
施設所管課所見 (成果、課題、今後の改善点等)	収支状況	収支予算書と比較して、収支状況は妥当である。	A	A
	《 総 括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設 項目】	A	A
	指定管理者所見 (成果、課題、今後の改善点等)	テニスコートは1組ごとの利用人数が増え、下期にはスポーツセンターテニスコートの工事期間中にコート利用、スクール利用で多くのお客様にご利用頂けた。野球場は2ヶ月間工事ににより稼働できない時期もあったため、利用者数も収入も前年を下回った。教室は、昨年度途中で新設された教室が徐々に安定した集客が出来たほか、新規教室にもチャレンジし、増収させることができた。		
	施設所管課所見 (成果、課題、今後の改善点等)	土壌改修工事にともない、約2カ月間グラウンドの使用ができなかった中、例年とほぼ同数の利用者数があり、利用率がアップしたことは評価できる。指定管理が始まった1年目と比べ、新たに自主事業を新設されるなど試行錯誤された結果、自主事業収入が大幅に増になったことは評価できる。		
	前年評価	A	総合評価	A

※評価区分

評価基準:	S	=	協定書等の水準を大きく上回っており、優良である。
	A	=	協定書等の水準を満たしており、良好である。
	B	=	協定書等の水準を満たしているが、一部改善が望ましい。
	C	=	協定書等の水準を満たしておらず、改善が必要である。
《総括》:	S	=	評価基準が全てA以上であり、かつSが過半数である。
	A	=	評価基準のうちBが3割未満で、Cがない。
	B	=	S、A、C以外
	C	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S	=	自己評価、所管評価の《総括》にB・Cが含まれず、かつSが過半数である。
	A	=	自己評価、所管評価の《総括》にCが含まれず、Bが2つ以下である。
	B	=	S、A、C以外
	C	=	自己評価、所管評価の《総括》にCが2つ以上含まれる。